「釣附海岸と島戸川河口干潟の生きもの観察会」報告

2021 年 11 月３日（水）13：00 ～ 16：00

2021 年 11 月 3 日、江田島市大柿町深江の釣附（つりづき）海岸と島戸川河口干潟の 2 か所で、生きもの観察会を開催しました。釣附海岸は、岩場、藻場、干潟、砂浜といったさまざまな海の景色を一度に見ることができる、抜群に生物相が豊かな場所です。さらに、島戸川河口の干潟は釣附海岸よりも泥分が多く、ハクセンシオマネキなど、また違った生きものを見ることができます。

当日は、元気な小学生 6 名、中学生 2 名、大学生 2 名を含む総勢 17 名が“さとうみ科学館”に集合しました。“さとうみ科学館”は、平成 14 年に廃校となった旧深江小学校を活用した施設で、江田島市教育委員会所管の施設として、学校教育と社会教育の両面から、自主的、継続的な理科教育、環境教育の充実と活性化を推進している機関です。講師の西原館長は、環境教育のスペシャリストであると同時に、カブトガニをはじめとする海の生きものに精通した博士号を持つ研究者で、広島県のレッドデータブックの作成にも携わっています。

観察会は、先ずは座学から始まりました。座学を行った 2 階の研修室は、もともとは理科室だった教室で、当時の趣が感じられます。

最初に“ひろしま県民いきもの調査”と“いきものログ”について、登録方法などの説明がありまし

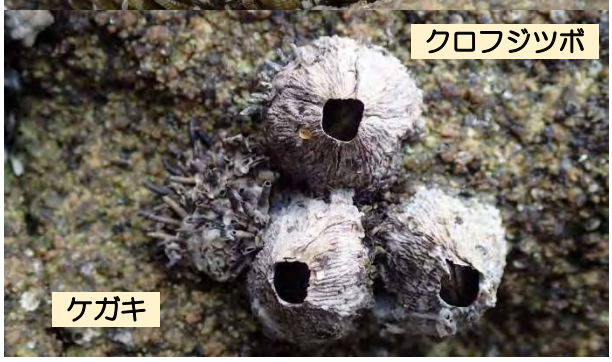
た。この後の観察会でみつかった生きものを、実際に報告してみるためです。

続いて西原館長から、江田島市が多様な環境に恵まれた野外活動のパラダイスだということや、今回観察する場所がどんなところなのか、また、海の生きものを観察する時に知っておかないといけないことなどについて、丁寧に説明してもらいました。

そして、いよいよ現地観察へ出発です。先に釣附海岸へ行きました。潮がひき、沖の岩の島と海岸が砂の道でつながっていて、その両脇には砂泥の干潟が出ていました。表題背景の写真がその時のようすです。

砂の道の上には、直径 1cm もない穴がたくさん開いていて、穴を中心に小さな丸いダンゴのような砂の塊が散らばっていました。穴はコメツキガニというカニの巣穴で、砂ダンゴはこのカニが砂粒の表面に付いた餌を食べる時にできるそうです。また、干潟の水たまりには、フワフワと自由に泳ぐ不思議なイソギンチャク、その名も“オヨギイソギンチャク”がたくさんいました。

西原館長に続いて砂の道を通り、岩の島に渡って観察を続けます。岩場の高いところでは、カメノテやクロフジツボ、ケガキなどがみつかりました。これらは、潮通しの良い海を好む生きものだそうです。



水から出ている岩場の生きものをひと通り説明すると、西原館長は長ぐつのまま海へどんどん入っていきます。大きな石を持ち上げて、裏に付いている生きものを見せてくれました。石には、ナマコやバフンウニ、メダカラガイやシワオウギガニなど、たくさんの生きものが付いていました。長ぐつに水が入るのも構わず、太ももまで水に浸かって持ち上げた石の裏からは、ムラサキウニがみつかりました。

西原館長が座学で説明してくれていたとおり、釣附海岸にはさまざまな環境の場所があり、それぞれの場所に応じて、いろいろな生きものがすんでいることがわかりました。まだまだ見ていない場所もありましたが、とても時間が足りません。なごり惜しい思いでしたが、次の観察場所の島戸川の河口へ移動しました。

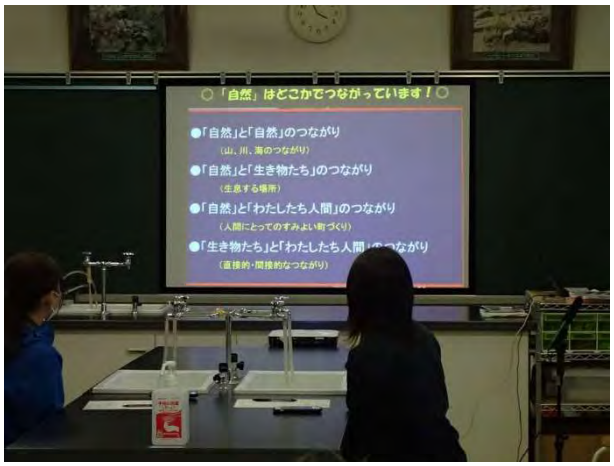
島戸川では、最初は道路の上から干潟を見下ろして、観察場所の説明をしてもらいました。護岸の下に見えている植物は、ハマサジといって広島県の準絶滅危惧種です。ハマサジが生えている近くの干潟には、これも県の準絶滅危惧種になっているカニのハクセンシオマネキがいるそうですが、遠くて良く見えません。

みんなで干潟に降りて観察することになりましたが、11 月ともなるとハクセンシオマネキの活動も盛期と比べて不活発になっていて、一度巣穴に隠れるとなかなか出てきてくれません。

西原館長の「誰かが動くと、周囲のカニが全部隠れてしまうからね、絶対に動いてはだめですよ」

という指導を受け、参加者はそれぞれ巣穴を決めて、じっと待機しました。しばらくすると、「あ、出てきた！」という声があちらこちらから上がり始め、無事、みんながハクセンシオマネキを観察することができました。

島戸川河口での観察の最後に、観察会スタッフがスマートフォンを使って“ひろしま県民いきもの調査”への報告を実演しました。登録を済ませれば、位置情報と画像を報告するだけなので、簡単に調査に参加できます。その後は、さとうみ科学館にもどって観察会をふりかえりました。



ふりかえりでは、西原館長が、さっき観察してきた生きものについて、コメツキガニ、ハクセンシオマネキの餌の食べ方や、ダンスと呼ばれる面白い行動や名前の由来、ハクセンシオマネキの雄の大きなハサミは人間のサイズに置き換えると 20kg にもなることなど、興味深いお話しを動画をまじえながらしてくれました。

春や夏に訪れれば、今回よりももっと潮がひいて、広い範囲が観察できるそうです。また、カニたちも活発で、ダンスなどの面白い行動をじっくりと観察できるそうです。今回の参加者の皆さんにも、是非また違う季節に訪れてみてほしいと思います。そして、“いきものログ”を活用して、“ひろしま県民いきもの調査”に参加していただきたいと思います。

最後に、西原館長はふりかりの中で、環境と生きもの、そして私たちの暮らしが、それぞれが個性を持って無限の組み合わせでつながっていることを強調されました。その中の「生物多様性はつながりと個性」という言葉が特に印象的でした。楽しい観察会であったのと同時に、私たちが自然とどう暮らしていくか考えるきっかけになる、充実した観察会だったのではないでしょうか。